

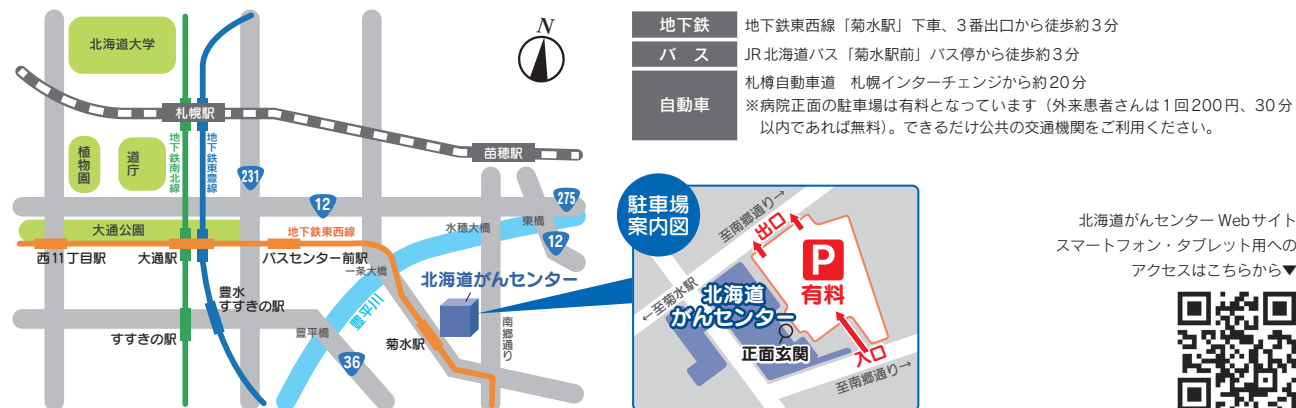


病 床 数	一般430床	診療科 25科	消化器内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、緩和ケア内科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺科、形成外科、泌尿器科、婦人科、骨軟部腫瘍科、リハビリテーション科、頭頸部外科、皮膚科、放射線治療科、放射線診断科、眼科、脳神経外科、口腔腫瘍外科、歯科口腔外科、感染症内科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科
敷地面積	18,920.12㎡		
延床面積	36,991.21㎡		
建物階数	地上8階、地下1階		
駐 車 場	276台		

施設立面図			
診療棟（本館）		管理棟（別館）	
8F	緩和ケア病棟	リハビリテーション室	
7F	南病棟	北病棟	
6F	南病棟	北病棟	
5F	南病棟	北病棟	
4F	南病棟	北病棟	
3F	南病棟	手術センター	
2F	コンビニエンスストア レストラン 美容室 患者サロン	外来診察室 外来化学療法センター	心電図 エコー 肺機能検査 脳波検査 聴力検査 採血室
1F	医事部門 患者総合支援センター 予約センター カフェ	外来診察室 中央処置室	画像総合受付 CT室 MRI室 内視鏡センター
B1F	栄養管理室 ボランティア室	薬剤部 医療情報管理室 全国（北海道）がん登録室	放射線外来 核医学検査室 放射線治療室

■病院機能

- 都道府県がん診療連携拠点病院
- がんゲノム医療連携病院
- 札幌市災害時基幹病院
- 全国がん（成人病）センター協議会加盟病院
- 北海道小児がん連携病院（骨軟部腫瘍）
- 臨床研修病院協力型
- 臨床研修病院
- 各学会専門医認定医指導施設
- 原子力災害医療協力機関
- エイズ治療拠点病院等



私たちは、国民の健康で幸福な生活のため
最新の知識と医療技術をもとに
良質で信頼のある医療の提供に努め
特に「がん克服」に寄与することを目指します

北海道がんセンターでは 診療科を超えた横断的な治療体制で がんと生活習慣病の診療と研究に 取り組んでいます



■北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

■基本方針

1. 都道府県がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
2. 常に医療の質と技術の向上を目指します。
3. 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
4. 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
5. 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。
6. 適切で快適な職場環境の構築に尽力し、職員にとっても魅力ある病院づくりを目指します。

■患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 判断に必要な医学的な情報が提供される権利があります。
4. セカンドオピニオン制度を利用する権利があります。
5. 自らの意志で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
6. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

■患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮ください。

■患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力をお願いいたします。

■子どもの権利宣言

北海道がんセンターは、小児診療を行う場合に、『子どもの権利条約』を守り、未来ある子どもたちのすやかな成長発達を支援するため、次の権利があることを宣言します。

1. 適切な環境で医療を受ける権利
子どもは、安心できる環境のもと、おもしろいのある最良の医療を受ける権利があります。
2. 適切な情報提供を受ける権利
子どもとその家族は、医療行為を受けるにあたり、年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
3. 医療に参加する権利
子どもとその家族は、医療について自由に意見し、自ら医療を選択あるいは拒否する権利があります。
4. 医療を選択する権利
子どもとその家族は、担当医以外の医師の考え(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 医療を知る権利
子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
6. 個人情報保護を受ける権利
子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ個人情報保護される権利があります。院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力をお願いいたします。

がん専門医療

各診療科のがん専門医とがん診療に関わるさまざまな職種が、連携・協働しながら、専門性の高い治療を提供します

集学的治療

各専門スタッフが集まり、複合的な問題を抱えるがん患者さんの治療をチーム医療で行い、治療効果を高めています

検査・入院・手術

道内各地の病院や医院からの紹介患者さんを積極的に引き受け、連携・協働を密にしながら、検査・入院・手術に迅速に対応しています

研究・研修・教育

臨床に基づく研究や院内外の医療従事者のスキルアップへの取り組み、市民を対象とした講演会を継続的に開催しています

独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター

院長 平賀 博明



不安を希望に 変えるために

当院の前身は国立札幌病院ですが、昭和43年に北海道の要請を受けて北海道地方がんセンターを併設し、平成16年には国立病院の独立行政法人化に伴い、国立病院機構北海道がんセンターとなりました。また、平成21年2月からは、都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、道内がん診療の中核を担っております。

以前は、空調施設の乏しい古い建物と狭い駐車場で、決して満足していただける診療環境ではありませんでしたが、令和2年11月に新棟移転し、令和3年10月には広い駐車場も整備され、自信をもって患者さんを迎える環境が整いました。PET-CT、手術ロボット、最新の放射線治療装置を備え、治験などによる新しい抗がん剤の開発協力を通し、がん治療の最前線を目指しております。また、当院はがんゲノム医療連携病院として、がんゲノム検査とそれに基づく治療を推進しております。1階正面玄関横にはさまざまな患者さんご家族の支援にあたる患者総合支援センター、2階には通院薬物療法に必須の外来治療センター、最上階にはとても見晴らしのよいリハビリテーション施設と緩和ケア病棟を備えております。

国民の2人に1人が「がん」になるといわれるほど、がん患者さんの多い時代ですが、がんが疑われた方、がんと診断された方とご家族が抱くのは、やはり不安だと思います。この不安をゼロにすることはとても難しいことですが、当院のスタッフはその不安にできるだけ寄り添うことを基本としております。そして、その不安が希望に変わるお手伝いができればと職員一同全力で取り組んでおります。働き方改革や感染症対策で逼迫している医療環境のなか、皆さまに満点のご評価をいただくことはかなわないかもしれませんが、皆さま方のご支援とご助力をお願い申し上げます。

沿革

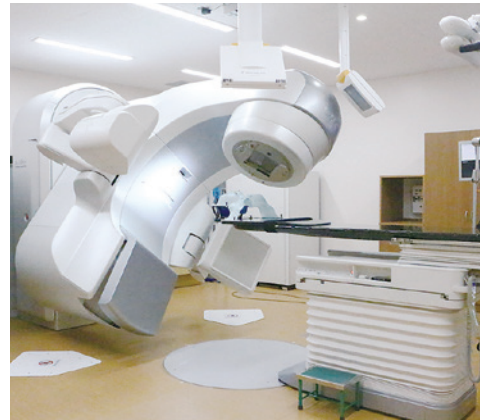
1896年12月	札幌衛戍病院(後の札幌陸軍病院)として開院(月寒)
1945年12月	国立札幌病院(厚生省に移管)に改称
1952年	当地(菊水)に進出して市内診療所を開設
1957年	16診療科450床、鉄筋コンクリート造の総合病院となる
1967年	道内初の放射線治療器リニアックを導入
1968年	北海道の要請により北海道地方がんセンターを併設 がん病棟100床増築
1983年	第三次救急医療施設併設
1986年	更新築工事(1979年から7期)完了
2004年 4月	独立行政法人移行に伴い「北海道がんセンター」となる
2005年 1月	地域がん診療連携拠点病院に指定
2009年 2月	都道府県がん診療連携拠点病院に指定
2010年 3月	救命救急センター部門が北海道医療センターに機能移転
2012年 4月	歯科口腔外科を新設し、 25診療科460床の運用となる
2015年 5月	25診療科443床の運用となる
2016年 4月	DPC対象病院となり、感染症内科を加えた 26診療科436床の運用となる
2016年 7月	網羅的ながん治療に対応するため 口腔腫瘍外科を加えた27診療科436床の運用となる
2017年 4月	がんゲノム医療センターを新設
2017年 7月	がん遺伝子外来を開設
2018年 7月	全面建替整備工事Ⅰ期工事完了
2018年 9月	新病院本館一部稼働、27診療科380床の運用となる
2019年 9月	がんゲノム医療拠点病院に指定
2020年 7月	全面建替整備工事Ⅱ期工事完了
2020年11月	新病棟移転完了により27診療科340床の運用となる
2021年10月	全面建替整備工事Ⅲ期工事完了により、 400床の運用となる
2021年12月	院内ICUをHCUに転換
2022年 4月	430床となる 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定
2023年 7月	がんゲノム医療連携病院となる

最高の技術・最新の医療機器で 専門性の高いがん治療を提供

私たちは地域のがん診療の中心となる施設として、専門的な知識や技術を持った医師や看護師、診療放射線技師、薬剤師などのさまざまな分野のスペシャリストが連携・協働する集学的医療を実践しています。



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



放射線治療装置「リニアック」

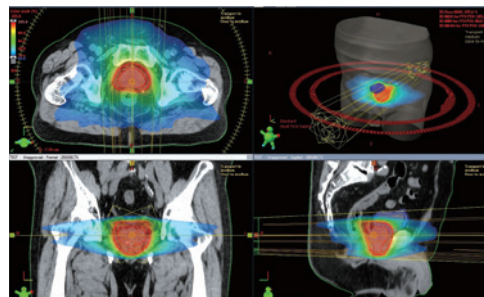
放射線療法

Radiation therapy

放射線治療は、手術療法・化学療法とともにがん治療に不可欠なものです。日本でも屈指の治療患者数(2024年:967人)である当院には、3人の放射線治療専門医、3人の医学物理士および6人の放射線治療専門技師が在籍し、北海道でもトップクラスの充実したスタッフ体制を誇っています。

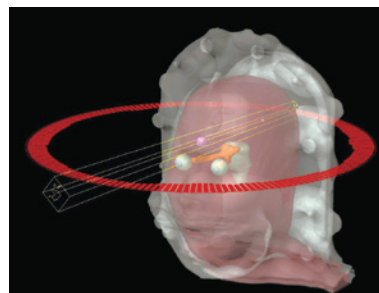
体外照射は複数のリニアックを使った最適なエネルギーのX線や電子線を使用し、副作用の少ない治療を行っています。コンピュータ制御で、がん病巣だけに集中照射しながら、周囲の正常組織にほとんど照射されない定位放射線治療(SRT2022年治療人数:脳48人、肺53人、その他24人)や強度変調放射線治療(IMRT治療人数:頭頸部39人、前立腺71人、その他124人)を症例に応じて実施しています。IMRTの進化形で、より短時間の治療が可能な強度変調回転照射(VMAT)、さらに呼吸同期放射線治療や画像誘導放射線治療(IGRT)の組み合わせにより高精度の治療が可能であり、適応症例も順次拡大しています。また、症例に応じてRALSによる高線量率(HDR)やCs-137などによる低線量率(LDR)の小線源治療も行っています。形態や機能を温存し、生活の質(QOL)を維持できる放射線治療は、根治的治療はもちろん進行がんや再発・転移がんに対しても有効です。

IMRT【強度変調放射線治療】



病巣へ放射線を集中させ、病巣の周りにある正常組織への放射線の影響を最低限に抑え、治療を行います。

SRT【定位放射線治療】



小さな病変に3次元的に大量の放射線を集中照射し、短期間で治療します。周囲の正常組織への被ばくを極力抑え、病変の部分にのみ高線量の照射が可能です。

外科療法

Surgical treatment

近年、治療技術や手術に用いる各種電子機器、内視鏡、ロボットなどの進歩により手術手技は大きく進歩してきています。われわれは手術の必要な患者さんに最先端の技術を提供するとともに、より安全に、可能なものはより低侵襲に、また逆に拡大手術で根治の目指せるものは、各科協力し徹底的な手術を行っています。以下は、私たちが行っている手術の実施例です。

- ①形態を温存、再建する手術…乳房温存・再建手術、子宮頸がんでの広汎子宮頸部全摘術(子宮体部温存)、乳がん・皮膚がん・子宮がんでのセンチネルリンパ節生検
- ②胃カメラ、大腸カメラを用いた手術…早期の胃・食道・大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
- ③胸腔鏡を用いた手術…肺がん・胸腺腫瘍・縦隔腫瘍に対する摘出手術
- ④腹腔鏡を用いた手術…胃・大腸・直腸などの消化器外科分野、卵巣・子宮などの婦人科分野、腎・前立腺などの泌尿器科分野などで最近幅広く用いられています
- ⑤手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いた先進手術…前立腺、腎、膀胱、子宮頸部・体部、胃、直腸、肺、縦隔のがんに対して実施しています
- ⑥機能を温存する手術…直腸・前立腺がん手術での性功能温存、卵巣腫瘍・子宮がん手術での妊孕能温存、耳鼻咽喉科分野での喉頭機能(発声・嚥下)温存、膀胱がんでの尿路再建などを行っています
- ⑦歯肉・舌など歯科領域の腫瘍に対する手術…口腔腫瘍外科が担当
- ⑧拡大根治手術…胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術、外陰がん・子宮がんに対する骨盤内臓全摘術(婦人科、泌尿器科、消化器外科で合同手術)、後腹膜・胸腔内の軟部肉腫摘出術(腫瘍整形、消化器外科、呼吸器外科、形成外科で合同手術)など



化学療法

Chemotherapy



がん化学療法の進歩は目覚ましく、画期的な薬剤や治療法が次々と開発されています。また、がん細胞を攻撃する従来の抗がん剤以外にも、がん細胞が持っている特定の分子だけに作用する「分子標的治療薬」や、がん細胞が巧みに免疫から逃れて生き延びようとするのを阻止する「免疫チェックポイント阻害薬」などの新しい薬剤が開発され、ますます治療の選択肢が増加しています。

これらの薬剤はがん治療における化学療法の有効性を高めると同時に、安全かつ適正に行うことに高い専門性が求められる時代になっています。当院では高度な知識を持った医師、看護師、薬剤師などの多職種が患者さんの治療に関わることで安全・安心な治療を提供しています。

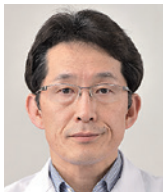
さらに当院では、外来化学療法を積極的に行っています。外来でがん化学療法を行うことの最大のメリットは、患者さんが日常生活を送りながら化学療法を受けることによって、生活の質(QOL)を維持することができることです。具体的には、化学療法を外来で受けることで今まで通り仕事も続けられ、趣味を楽しむこともできます。

多職種が横断的に連携・情報共有を行います センター医療

患者さんを中心とした医療を実現するため、医科、歯科、看護部、コメディカル部門などを横断した11のセンターを開設しています。

高度先進内視鏡外科センター

がんの外科治療をより身体にやさしく、より精密に、より確実にするため、手術支援ロボットを活用しています。前立腺、腎、膀胱、子宮頸部・体部、胃、直腸、肺、縦隔のがんに対応しています。



センター長
原林 透

前立腺センター

前立腺肥大症と前立腺がんは、高齢化とともにますます増加することが予想されます。そこで当センターでは排尿障害からPSA検診、各種がん治療まで、泌尿器科、放射線科、外来化学療法センター、高度先進内視鏡外科センターと連動して治療を進めています。



センター長
丸山 寛

口腔腫瘍センター

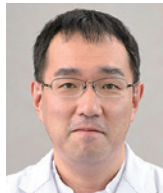
口腔腫瘍センターは、舌がんなどの口腔腫瘍領域の悪性疾患に対し、医科と歯科が共同で診療を行うことを目的としています。口腔腫瘍外科、形成外科、頭頸部外科が術前に合同カンファレンスを実施し、手術を行っています。



センター長
永橋 立望

呼吸器センター

呼吸器センターは、肺がん診療に関わる呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・緩和ケア内科の4診療科で構成されています。各科の緊密な協力体制のもと、安心で質の高い最新の医療を提供できる診療を患者さんに受けていただくことを目指しています。



センター長
大泉 聡史

外来化学療法センター

外来化学療法を行う最大のメリットは、患者さんが日常生活を送りながら化学療法を受けることによって、生活の質（QOL）を維持することができることです。当センターでは患者さんが不安なく最新治療を受けられるようにスタッフ一同頑張っています。



センター長
佐川 保

検診センター

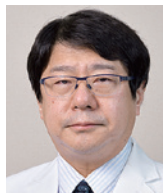
がんの死亡率を減らすには、生活習慣を改善してがんの予防をすることと早期にがんを発見し治療することが重要です。当院は、死亡率を低下させるためにがんに対する最先端の治療を提供するとともに、がん検診にも力を入れています。



センター長
藤川 幸司

腫瘍循環器センター

がん患者さんが治療を安心して受けられるよう、循環器系の評価や治療のサポート、治療に伴い発生した循環器疾患に対応することを主たる業務としています。また、日常診療で得られた経験を当院以外でも共有できるよう、積極的に学会や講演などで発信しています。



センター長
井上 仁喜

サルコーマセンター

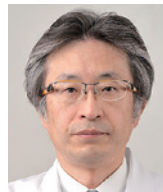
サルコーマ（肉腫）は骨や筋肉、脂肪組織、末梢神経、血管などに発生するまれながん（悪性腫瘍）です。さまざまな部位に発生する肉腫の患者さんに、複数の診療科が診断から治療まで同時にチームで関わり、迅速な診療を目指しています。



センター長
平賀 博明

内視鏡センター

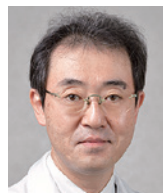
消化器内科・呼吸器内科領域の内視鏡とX線透視装置による検査、処置、内科的手術を行っています。医師、内視鏡技師、看護師、さらに精密機器に精通した臨床工学技士を加えて、患者さんにとって安全・安心な内視鏡センターを目指し、取り組んでいます。



センター長
藤川 幸司

がんゲノム医療センター

がんゲノム医療センターでは、がん遺伝子の異常を調べるプレジジョン検査を実施し、遺伝子レベルでがんの個性を判断して最も適した治療薬の情報を提供することで、プレジジョンメディシン（精密医療）の実現を目指しています。



センター長
横内 浩

パソロジーセンター

パソロジー（病理学）はがんの性質や広がりを顕微鏡観察などによって見極め、最終診断を確定する診療分野です。臓器領域を問わず信頼性の高い病理情報を提供し、国内医療機関の診療・研究支援や人材育成などへの貢献も行っています。



センター長
松野 吉宏

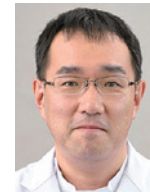
一人一人の患者さんに最善の治療方法を探り実践する 診療科

高度な知識と技術を持った医師が診療科の枠を超え、連携・協働しながら心身全体を診る総合的な医療に取り組んでいます。

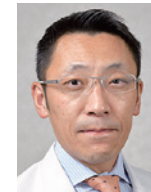
現員医師数 79人
レジデント 9人
期間・非常勤 3人
(2025年4月1日現在)



院長
平賀 博明



副院長
大泉 聡史



副院長
藤本 勝也



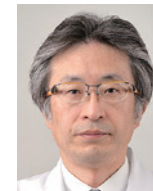
統括診療部長
丸山 寛



診療支援部長
前田 好章



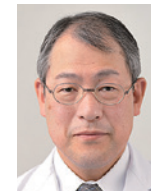
手術部長
原林 透



外来診療部長
藤川 幸司



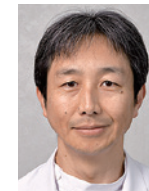
教育研修部長
渡邊 健一



放射線診療部長
西山 典明



放射線診療部長
南部 敏和



病棟診療部長
安達 大史

消化器内科

外来診療部長：藤川 幸司
医長：佐川 保、永島 裕之、平川 昌宏

主に消化管（食道・胃・小腸・大腸）および肝・胆・膵領域の悪性腫瘍の診断と内科的治療を行っていますが、良性疾患である消化管の潰瘍・炎症・ポリープや、肝炎・肝硬変、胆膵領域の結石や炎症、さらに便秘や下痢といった機能的疾患などを幅広く診療しています。

外来は、消化管・肝胆膵と2つの領域に分けています。3大がん・4大がん・胃がん・大腸がん検診による消化器がんの早期発見にも取り組んでいます。

治療は、抗がん剤治療だけでなく、内視鏡手術や肝臓のラジオ波焼灼術・塞栓療法、胆膵疾患の内視鏡的処置にも対応しています。標準的な治療の選択肢がなくなった患者さんや治療法が少ない希少がんの患者さんは、がんゲノム遺伝子検査によって、可能性は少ないですが治療に結びつくケースがあります。また、治験に参加していただくことで新規薬剤による治療が提供できる場合があります。

血液内科

副院長：藤本 勝也
医長：坂井 俊哉

血液内科では、血液専門医および造血細胞移植認定医の資格を持つスタッフによる専門的な診療を行っています。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性白血病、骨髄異形成症候群などの血液がんをはじめ、血球減少や凝固異常など幅広い血液疾患に対応しています。

当院では、PET / CT装置を完備し、CTガイド下での針生検も迅速に実施できる体制を整えており、血液がんの診断から治療までスムーズに進めることが可能です。また、4床の高度無菌治療室を含む血液専用病床を備え、自家末梢血幹細胞移植を中心とした造血幹細胞移植治療も積極的に行っています。

血液がんは抗がん剤や放射線療法に対する感受性が高く、新規治療法の開発によって治療成績は年々向上しています。当科では高齢の患者さんにも積極的に化学療法を実施し、患者さん一人一人に最適な治療を提供しています。また、新たな分子標的薬や二重特異性抗体などの最新治療をいち早く導入し、治験や臨床試験も積極的に行っています。

呼吸器内科	
副院長：大泉 聡史 臨床研究部長：横内 浩 医長：朝比奈 肇、山田 範幸、水柿 秀紀	

主に肺がんの診断や内科治療を行う北海道の拠点施設です。進行肺がんはいまだに完治の困難な疾患ですが、分子標的薬による個別化治療や免疫療法の導入によって、以前よりもはるかに長くがんの進行を抑えられるようになりました。個別化治療の第一関門は内視鏡検査によりがん細胞を採取して、その遺伝子異常や免疫の状態を調べることですが、当科は非常に精度の高い内視鏡技術を有しています。道内および全国の臨床研究グループに属し、数々の国内外の治験や臨床試験を行っています。患者さんを中心に医師・看護師・薬剤師・リハビリテーションスタッフ・ソーシャルワーカーが参画するチーム医療を実践しており、科内および関連他科との定期カンファレンスで治療方針を検討しています。また、長年にわたる肺がん検診の実績から、早期肺がんの診断にも精通しています。

循環器内科	
医長：井上 仁喜	

当科は、しばらく病棟診療を休止していましたが、新病院の稼働とともに本格的に入院患者さんの受け入れを再開しました。救命救急センター機能は北海道医療センターへ移行したままのため救急患者を24時間受け入れる体制とはなっていませんが、近隣の高次の救命救急施設とも連携しながら3人の循環器専門医が診療にあたっています。心臓カテーテル室をはじめ、最新の循環器医療に対応できる設備は全て整っており、現在は高血圧や糖尿病などの生活習慣病から、虚血性心疾患、不整脈、心不全、睡眠時無呼吸症候群などの高度な専門性を有する疾患まで、幅広く対応しています。北海道がんセンターの患者さんは、転院せずにがんと循環器疾患の治療を受けられます。これは患者さんにとって大きなメリットと考えます。

緩和ケア内科	
医長：松山 哲晃	

適切な抗がん剤治療とともに、がんに伴う身体的および精神的苦痛に対する緩和ケアを早期から受けることは、できる限り長く、その人らしく過ごすために大切と考えられています。当科では病気の進行時期や治療内容によらず、専門的な緩和医療を提供しています。各診療科で治療を受けている患者さんには、通院中は緩和ケア内科外来で、入院中は緩和ケアチーム（医師、看護師、薬剤師など）で治療ケアにあたります。また、抗がん剤治療を中止し緩和ケアに専念する患者さんには、新棟8階の緩和ケア病棟での療養も可能です。ご自宅や馴染み深い地域での療養を望まれる患者さんとご家族も増えていますので、在宅緩和ケアをお任せできる他医療機関とも随時連携し、入院あるいは在宅どちらでも、その時々 の病状やご意向に応じ療養環境を整えるよう努めています。

消化器外科	
診療支援部長：前田 好章 医長：皆川 のぞみ	

大腸がんをはじめ胃がん、肝がん、膵がん、胆道がん、食道がんなどの手術治療を担当しています。これらのがんは、手術が最も有効な治療であり、速やかに適切に施行することが治療成績の向上に重要です。当科では、手術の質にこだわっており、大腸がんでは適切な切除範囲の設定・リンパ節郭清によって、局所再発率を非常に低く抑えています。また、高い技術力を背景に、進行がんにも腹腔鏡手術を施行しており、現在、大腸がんの患者さん95%以上が腹腔鏡手術を受けています。直腸がんにおいても90%以上の方に肛門温存手術を施行していますが、2019年から導入したロボット補助下直腸がんの技術により、さらに直腸がんの手術成績・肛門温存率を向上できると考えています。再発・転移がんに対しても、消化器内科と協力し化学療法と組み合わせた集学的治療に取り組み、標準治療を超えた治癒例を得ています。さらに、初診までの期間、初診後から手術までの期間を最短にする努力をしており、ほとんどの患者さんが初診から2、3週間以内に根治手術を行っています。

呼吸器外科	
病棟診療部長：安達 大史 医長：水上 泰	

当科の特色は、肺がんや縦隔腫瘍などの疾患に対し、胸腔鏡手術の手技をいち早く完成させたことです。現在ではこれを更に進化させ、最先端の技術を取り入れたロボット手術や、全国でも実施できる機関が少ない単孔式胸腔鏡手術（従来の胸腔鏡手術の傷を1つとした術式）を標準化し、安全・確実で、痛みが少なく傷も目立たない手術を行っています。一方で進行したがんの拡大手術も積極的にこなっています。肺がんの手術症例数は全国でも有数の施設の一つで、患者は札幌市内はもとより、全道各地からも来ています。肺がんは、手術だけではなく抗がん剤治療や放射線治療が必要となることも多く、生活習慣病や他の併存症を抱える患者さんもいます。早期から進行がんまで、呼吸器内科・放射線科・緩和ケア内科・循環器内科・リハビリテーション科など他科のエキスパートと連携し、かかりつけ医との情報共有を密にし、患者さん一人一人に最適な治療を行うよう努めています。「外科医はハートと腕」を心得として日々診療を行っています。

乳腺科 （乳腺外科）	
教育研修部長：渡邊 健一 医長：富岡 伸元、山本 貢	

乳がんの診断から治療、その後のフォローまで一貫して診療しています。最新の3Dマンモグラフィーやマンモトームを用いて診断し、手術数は400件以上で全道最多です。可能であれば乳房温存やセンチネルリンパ節生検を用いた負担の少ない方法で行います。小さな腫瘍に対してはラジオ波熱焼灼療法も実施しています。全摘の場合でも乳房同時再建を形成外科と協力し行います。遺伝性乳がん卵巣がんの診療にも力を入れておりリスク低減乳房切除も可能です。

薬物療法や放射線療法にも力を注いでいます。化学療法施行数は年間数千件と全国でも有数で十分なノウハウを蓄積しています。最新の治療を提供するために、全国、世界規模の臨床試験や治験も積極的に行っています。放射線科、形成外科、骨軟部腫瘍科、外来化学療法センター、緩和ケアセンターなどと連携し、科学的な根拠に基づいた最新・最適な治療を提供いたします。

形成外科	
医長：齋藤 亮	

当科の診療の軸は「再建手術」です。他の科においてがんを切除し、そのために生じた組織欠損に対する再建を行います。日常的にあらゆる診療科との「チームサージャリー」を行っていますが、特に多いのが、乳腺外科・骨軟部腫瘍科・頭頸部外科との手術です。乳腺外科との手術では、乳がん切除後乳房欠損に対する乳房再建術を行っています。骨軟部腫瘍科との手術では、主に四肢や体幹に生じた軟部腫瘍を対象とし、皮弁術や皮膚移植術などを用いて再建します。頭頸部外科との手術では、口腔内や咽頭に生じたがんを対象とし、主にマイクロサージャリーの技術を用いて舌や咽頭の再建を行います。

また、がんの手術後に生じたリンパ浮腫に対する外科的治療（リンパ管と静脈を吻合する手術）も行っています。

泌尿器科	
統括診療部長：丸山 寛 手術部長：原林 透 医長：高田 徳容	

2015年にわが国でも男性悪性腫瘍のトップとなった前立腺がんに対して、検診による早期発見、局所がんに対する根治的治療から進行がんに対する疼痛緩和までを総合的に診断し、治療を行うことに最も力を入れています。根治療法として、ロボットを駆使して性功能温存手術と拡大リンパ節郭清術を併用した前立腺全摘除術、放射線科と共同の放射線療法をがんと患者さんの状況に応じ行っています。

進行がんに対しては、近年登場したホルモン製剤、抗がん剤、ラジウム製剤を使い分けて長期にがんの進行をコントロールしています。がん治療では根治性はもちろん重要ですが、生活の質を維持するために機能温存も重要です。腎がんに対する手術は従来から腎部分切除に力を入れてきましたが、ロボット支援手術も可能となり適応を広げています。

がん化学療法では、初回化学療法はもちろん、精巣がんでは難治症例も積極的に受け入れています。

婦人科	
医長：見延 進一郎、山田 竜太郎	

症例数は全道一を誇り、内視鏡に代表される初期がんに対する低侵襲治療から、他科との合同根治手術、試験的な先進医療まで広範囲に診療を行っています。特記すべきは研究活動です。日本のガイドラインに影響を与えるエビデンスを発信し続けています。

骨軟部腫瘍科	
医長：岩田 玲	

骨と筋肉・脂肪組織・末梢神経・血管などの軟部組織と呼ばれる部位に発生する腫瘍の診療を行っています。近年、これらの腫瘍の中でも特に悪性骨軟部腫瘍に対する診療の集約化の必要性が国内で話題になっています。当科は北海道唯一の骨軟部腫瘍専門の診療科であり、これらの腫瘍に精通したスタッフが道内の患者さんに幅広く対応しています。

治療では患肢温存手術および化学療法に実績を持ち、臨床試験や治験にも全国的なネットワークを通じて積極的に取り組んでいます。

リハビリテーション科	
医長：岩田 玲 理学療法士：12人 作業療法士：4人 言語聴覚士：2人	

がんのリハビリテーション治療には身体機能の早期回復、副作用の軽減、不安・抑うつ の解消といった多くの効果があります。当科では専門医の診断・指示の下、規定の研修を終えたリハビリテーション専門職が治療にあたります。安全で効果的な運動療法を行うために、各種画像検査、骨密度や骨格筋量測定、心肺運動負荷試験などの客観的データも活用しています。

診断や治療の過程で変わりゆくリハビリテーションニーズに対応するために、入院前や退院後の外来診療も行っています。生涯にわたって良好な生活の質（QOL：quality of life）が保てるよう、個々の患者さんの病状・病期・障害に応じた最善のリハビリテーション診療を提供します。

頭頸部外科	
医長：永橋 立望	頭頸部腫瘍の治療を専門としています。頭頸部領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、具体的には、口腔がん、舌がん、咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん、鼻副鼻腔がん、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍などです。神経温存の有無が機能障害に直結する甲状腺、耳下腺手術なども数多く手掛けています。顔面神経麻痺、反回神経麻痺などの術後性神経麻痺の発生率は、数パーセントと良好な結果となっています。 手術を行わなくても治る可能性がある症例に対して放射線科と共同で行う抗がん剤併用の放射線療法において、喉頭温存と治療成績の点で良好な結果を得ています。 さらに、形成外科と合同で血管吻合を必要とする再建移植手術も数多く行っています。 病状が適応に合致すれば、がん免疫療法のオプジーボの使用も行っています。

皮膚科	
医長：佐藤 誠弘	がん治療に伴う抗がん剤の皮膚障害、担がん状態を背景としたがん性創傷やテルマトローム、ダーモスコピーを使用した皮膚悪性腫瘍の診断を主たる専門領域として診療を行っています。抗がん剤による皮膚障害は、当院で化学療法を受けている患者さんのみならず、近隣の病院から紹介があった抗がん剤治療中の患者さんも含め積極的に診断し、治療に関わっています。 近年、数多くの新規抗がん剤が使用されることとなり、それに伴い多様な皮膚障害が生じていますが、がん専門病院における多数例の経験を通じて得た見地から、個々人の状況に応じて、適切な介入をしています。がん性創傷については、医師以外にも看護師やその他のコメディカルを含む多職種による総合的な検討を行うことで、患者ごとの背景に応じたアプローチができるよう配慮しています。また、遠隔地から通院される場合には、地域の皮膚科と連携して診療することで、通院による負担が少なくなるよう工夫をしています。

放射線治療科	
放射線診療部長：西山 典明 医長：田口 大志	粒子線治療を除く、X線、ガンマ線、アルファ線、ベータ線を使ったほぼ全ての放射線治療を提供できる道内でも数少ない施設です。 放射線治療は、外科治療、化学療法（抗がん剤治療）とともにがんの根治を目指す上で重要な役割を担っており、その一番大きな特徴は臓器の形態・機能温存にあります。たとえ根治が望めない状況であっても、痛みや出血など普段の生活上の妨げとなる症状を緩和するための治療も行っています。治療に際しては市外や通院困難な方のために入院での対応も行います。 治療には強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療、さらに小線源治療といった組織内から放射線を照射する方法などを用いて、できるだけ患者さんの身体的負担や副作用を減らせる方法を提供しています。

放射線診断科	
放射線診療部長：南部 敏和 医長：坂井 亙	診療では、最適な治療方針を決定するために各種X線機器のほか、CT、MRI、ガンマカメラ、PET-CT、血管造影装置などの画像検査が多く利用されています。当科はこうした画像機器を駆使した画像診断（読影）や画像下治療（IVR）を担当しています。読影では病変の発見、似た疾患との判別、病変の進行度や治療中の変化の観察を行います。予想外の病変発見も含め役立つ情報を拾い上げ、所見報告書を作成し、チーム医療に広く還元します。IVRではカテーテルの留置、病変部に薬剤を注入する血管内治療、体内の病変を採取する針生検など、全身麻酔を必要としない低侵襲な検査・治療を行っています。こうした画像による専門的診療は多くのがん治療の中で繰り返し行われており、最先端の診療を支える上でなくてはならない領域になってきています。

眼科	
出張医	眼科全般の診療をしています。診療は毎週月曜です。 当院にはがん治療で通院されている方が多いと思いますが、抗がん剤の中には目に副作用が現れるものがあります。代表的なものに角膜障害、鼻涙管閉塞などがあり、どちらも目のかすみや、涙流（涙目）などの症状が出ます。これらは早期治療することで重症化を防ぐことができますので、症状があればいつでもご相談ください。
脳神経外科	
	現在１人体制で、常駐はしていませんが、診療は第２・４金曜の９～１２時の外来となっています。 主に脳の悪性腫瘍、特に転移性脳腫瘍の診断、治療方針の決定、そのほかにも生活習慣病などが原因となる脳梗塞や認知症の診断などを行っています。分かりやすい、懇切丁寧な説明を心掛けています。

口腔腫瘍外科	
医長：上田 倫弘、林 信	開設から多くの患者さんが診断治療を目的に受診されました。主に扱う疾患は、口腔がん（舌がん、歯肉がん、頬粘膜がん、口底がん、口唇がん、各種唾液腺がん）、前がん病変・前がん状態（口腔白板症や扁平苔癬）、口腔粘膜や顎骨に発生した良性腫瘍です。治療内容は、悪性疾患では早期の病変で外科的な切除に対応しますが、病期の進行に伴い放射線治療、化学療法を含めた集学的治療を行います。 開設からの理念である「科学的根拠に基づいた標準治療を基本とし、標準治療では対応不能な患者にもベストな治療を行う」に基づき治療を行っています。

歯科口腔外科	
医長：秦 浩信	当科では、がん治療中に生じるさまざまな口腔内トラブルへの対応を行っております。また、がん治療前に口腔環境を整えることで、肺炎をはじめとする手術後の合併症や抗がん剤などによる口腔内の副作用を予防・軽減することができます。多くのがん患者さんに口腔管理を受けていただけるよう、がん診療連携登録歯科医やかかりつけ歯科医ともスムーズに連携できるように心がけております。食事や会話を楽しむといった生活の質を保ちつつ、がん治療に専念できるよう、口腔からサポートいたします。

感染症内科	
医長：藤田 崇宏	当院でがんの治療を受ける患者さんに起きる感染症の予防、診断、治療について、全診療科からの相談を受けて診療を行います。また、院内で新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症や、薬剤耐性菌が広まらないよう感染対策活動や抗菌薬適正使用の活動も行っています。全国でも感染症内科を設置するがん専門病院は増えていますが、現時点では北海道内で唯一のがんセンターに設置された感染症内科です。

麻酔科	
医長：三國 生臣	当院は病院の性格上、長めで大きな手術が多いですが、例年2000件前後の症例に麻酔科が関わり、麻酔科専門医が手術麻酔などに対応しています。 当院の手術室には麻酔科用のエコーが複数台あり、エコーガイド下の神経ブロックやエコーガイド下の血管ルート確保（末梢ルート、Ａライン、CV、PICC）に大いに活用しています。その中でもエコーガイド下で上腕から挿入するPICC（peripherally inserted central venous catheter：末梢静脈留置型中心静脈カテーテル）ではエコーが大活躍しています。他科からのPICC挿入の依頼も多く、年間数百例実施しています。PICCに限らず、血管が体表からは見えない患者さんの点滴ルート確保（末梢血管確保）やＡライン確保にもエコーが有用で、患者さんの苦痛の軽減と安全に役立っています。

病理診断科	
医長：松野 吉宏	当科では、手術や内視鏡検査などで採取された病変の病理診断を行っています。病理診断は病変部の細胞や組織を種々の特殊な染色や顕微鏡などを駆使して直接観察し、腫瘍の有無や種類、悪性度など病変の詳細な性質・広がりをも最終決定する専門性の高い診療分野です。当科はがんの診断経験豊富な病理専門医と優れた技術を誇る臨床検査技師スタッフとの共同作業により、今後の診療方針に直結する信頼性の高い確定診断を速やかに報告しています。またカンファレンスなどの場で、患者さん一人一人の病変の病理所見から得られる情報に基づいて臨床担当医に助言することも大切な使命の一つです。あらゆる診療科などと密に連携し、薬物治療の有効性予測やがん遺伝子パネル検査、さらに新しい治療開発を目指す臨床研究にも重要な役割を果たすなど、患者さんに直接お目にかかることはありませんが、当院のがん診療・研究に広く盤石な土台を日々提供し続けています。

臨床検査科	
科長：坂井 俊哉	当院の臨床検査科は、血液、輸血、生化学・免疫、一般（尿・便）、細菌、生理（心肺機能・超音波）、病理・細胞診などの各部門に分かれています。患者さんの血液、尿・糞便などの検査や心電図、呼吸機能、超音波などの検査は、この中のいずれかの部門が担当し、その結果は医師に報告され診断や治療の補助となります。病理・細胞診部門は病理診断科の業務に携わっています。 当科では最新のテクノロジーを駆使した自動分析装置を導入しており、高感度で正確な検査結果を迅速に報告できる体制を構築しています。また、各部門では各学会の認定を取得している専門的なスタッフが検査を担当しており、臨床検査の高水準な品質の維持と向上に日々努めています。

※心臓血管外科、精神科は休診中です

がん検診

当院はがん専門医による「がん検診」を実施しています。ご希望の方は、事前ご予約のうえ検診をお受けください（完全予約制）。

がんは早期発見・早期治療が大切であることは言うまでもありません。詳細についてはお問い合わせください。

乳がん検診	金 14:30 ～ （令和7年1月以降受け付け休止）
子宮がん検診	月～金 13:30 ～ 14:30
前立腺がん (PSA) 検診	木 11:00 ～
大腸がん検診	月 11:00 ～ 火～金 14:00 ～
胃がん (胃内視鏡) 検診	金 ①9:30 ②9:50
PET 検診	月～金 10:30 ～
低線量肺CTによる肺がん検診	水・木 ①12:00 ②15:00

検 診			価 格
子宮がん 検診	①札幌市検診 札幌市在住の満20歳以上で 偶数歳の方（2年に1回）	子宮頸がん検診	1,400円（税込）
		子宮頸がん・子宮体がん検診	2,100円（税込）
		70歳以上の偶数歳	無料
	②定額検診 検診結果郵送用に 別途切手代90円必要	子宮頸がん検診	3,779円（税込）
		子宮頸がん・子宮体がん検診	4,492円（税込）
		子宮頸がん または 子宮体がん・卵巣がん検診	5,582円（税込）
		子宮頸がん・子宮体がん・ 卵巣がん検診	6,600円（税込）
乳がん 検診	別途オプション	HPV 検査	3,300円（税込）
	①札幌市検診 札幌市在住の満40歳以上で 偶数歳の方（2年に1回）	40～49歳	1,800円（税込）
		50～69歳	1,400円（税込）
		70歳以上の偶数歳	無料
	②定額検診	全年齢	4,400円（税込）
	別途 オプション	乳腺エコー（超音波検査）	2,200円（税込）
		マンモトモシンセシス撮影	2,200円（税込）
		乳腺エコー＋マンモトモシンセシス撮影	3,850円（税込）

検 診				価 格
胃がん 検診	胃 内視鏡	札幌市検診 札幌市在住の 満50歳以上で 原則偶数歳の方 (2年に1回)	50歳以上	3,500円（税込）
			70歳以上	無料
		通常		8,658円（税込）
前立腺 がん 検診	通常			2,200円（税込）
大腸がん 検診	札幌市検診のみ		40歳以上	400円（税込）
			70歳以上	無料
肺がん 検診	通常			8,800円（税込）
PET 検診	通常			78,000円（税込）

※2025年4月1日現在

がん検診 予約連絡先

外来予約センター ☎011-811-9111

【受付時間：月～金（祝日除く）10:00～12:00／13:00～15:00】

※外来予約センター窓口（診療棟1階）でも直接受け付けています ※予約変更は7日前までをお願いいたします

緩和ケアセンター

「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「緩和ケア病棟」「がん看護外来」を統括し、全てのがん患者さんやそのご家族に適切な緩和ケアが診断時から切れ目なく提供されるよう活動している組織です。

緩和ケアとは、痛みなどの体のつらさや、落ち込み・不安などの気持ちのつらさを和らげるためのケアです。当院では患者さんご家族のQOL改善を目的に、がんと診断された時から緩和ケアに取り組んでいます。

緩和ケアを受けることのメリット

- 痛みを緩和することで、不眠・食欲低下・意欲の低下が改善できます
- がん治療中の苦痛を伴う症状（吐き気、痛み、倦怠感など）が緩和され、がん治療に取り組む力が湧いてきます
- 患者さんやご家族の不安や心配事など、心のつらさを和らげることができます

緩和ケアチーム

入院患者さんを対象に、病気や治療によるつらい症状や悩みを緩和し、がん治療が継続できるよう、その人らしい日々を送ることができるよう、サポートする専門チームです。医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・リハビリスタッフ・管理栄養士・心理士などの多職種で構成され、主治医や担当看護師と協力して対応します。

緩和ケア外来

外来患者さんを対象に、がんの痛みや治療に伴う副作用、気持ちの落ち込みや不眠などの精神面のつらさを緩和するための治療をしています。

がん看護外来

がんと診断された患者さんの療養上の不安や心配事を一緒に考え、心理社会的支援を行います。当院のがん看護外来は、専門的な知識や技術を持った看護師が担当しています。

緩和ケア病棟

がんの治療（手術、薬物療法、放射線療法など）ではなく、がんの進行などに伴う体や心のつらさに対する専門的な緩和ケアを提供する病棟です。「その人らしく安心して過ごせるように支える」ことを理念に治療やケアを行っています。



ダイルム・多目的ホール



ルーフガーデン

患者総合支援センター

がん相談支援センター

がん患者さんやご家族、または地域住民に対してがん医療に関する情報提供や相談支援を行っています。個々に適した支援が、病状の変化に即応しながら途切れることなく提供されるよう、地域の関係機関と密接に連携しています。

■がん相談【予約不要・相談無料】

専従の専門がん相談員（医療ソーシャルワーカーとピアサポーター、看護師）が、がん患者さんやご家族などのお話をうかがい、さまざまな悩みや心配事を少しでも解決できるように、お手伝いします。

アピアランスケアルーム

外見に関する悩み相談やウィッグ、帽子、人工乳房、下着、ネイルなどの試着・貸与を行っています。患者さんが安心して治療に専念し、療養生活が送れるよう支援します。



■就労相談【相談無料】

仕事に関する心配事について、就職支援ナビゲーター（ハローワーク札幌東）や社会保険労務士、医療ソーシャルワーカー、両立支援コーディネーター（産業保健総合支援センター）が相談に応じ、一緒に考えます。

- 就職支援ナビゲーター…第1・3水（午後は要予約）
- 社会保険労務士…要予約
- 治療と仕事のための両立支援相談…要予約

■患者サロン【参加無料】

患者さんやご家族など、さまざまな方々がお茶を飲みながら体験談や悩みなどをお話できる場です。

【会場】当院2階 患者サロン

- 【開催日時】
- ひだまりサロン …第2水 10：00～11：00
 - 乳がんサロン ……第3木 13：30～14：30
 - Peers salon ……第2金 14：00～15：00
 - 卵巣がんサロン …第3火 13：30～14：30
 - HBOCサロン ……第4金 13：30～14：30



■北海道がん総合相談支援センター

がん体験者であるピアサポーターが、患者さんやご家族のがんに対する不安や悩みに寄り添います。

■退院支援

当院退院後も安心してお過ごしいただけるよう、介護サービスの調整や在宅医療調整、転院など、退院に向けたお手伝いをしています。

お問い合わせ

がん相談、就労相談、患者サロン

☎011-811-9118【受付時間：月～金（祝日除く）9：00～16：30】

北海道がん総合相談支援センター

☎011-811-9111（内線2311）【受付時間：月～金（祝日除く）9：30～16：00】

地域医療連携室

地域の病院、医院等の先生方と医療連携を円滑に進めていくための窓口です。地域医療連携室を通して紹介予約を頂くことで事前にカルテを作成準備することで、ご紹介頂いた患者さんの待ち時間短縮などの対応に努めています。

■紹介予約

診療情報提供書（貴院様式）、外来予約申込書をご作成し、地域医療連携室にFAXしてください。

■医療連携

地域の病院、医院等と連携を図り、当院への円滑な紹介や逆紹介を進めています。

■セカンドオピニオン外来

【完全予約制・60分以内16,500円（税込）】

すでに医療機関にかかっている患者さんで、病気や治療への理解を深め、より納得して治療を受けるために、「別の医師の話を聞いてみたい」と思う方やご家族が対象です。

■入院時支援

入院予約の患者さんに対し入院の説明をいたします。また日常生活の様子やお薬のことを聴取し、入院前から患者さんに接することで安心して入院出来るように支援します。

お問い合わせ

地域医療連携室

☎011-811-9117【受付時間：月～金（祝日除く）9：00～16：30】
※予約申し込み 9：00～16：30



がん患者さんのための地域の療養情報

北海道がんサポート ハンドブック2025

がん相談支援センター（1階）で無料配布しています



Webからもご覧いただけます

2023年 院内がん登録 主ながん部位別 治療方法実績

当院は「都道府県がん診療連携拠点病院」として、2009年4月に院内がん登録室を設置し、専任の診療情報管理士が「院内がん登録」を実施しています。

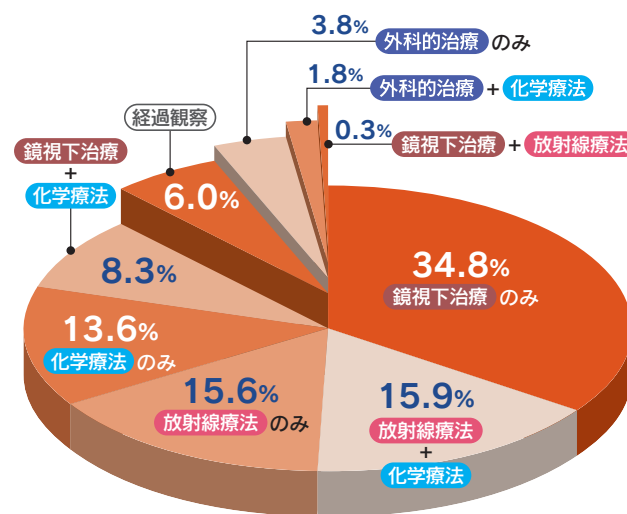
注意事項

1. 2023年診断症例院内がん登録データは2025年1月時点で集計したデータのため計画された初回治療が完了していない症例も含まれる
2. ※1 症例区分は登録施設での診断の有無と登録施設における初回治療の有無の組み合わせにより症例を分類する区分であり、「80」は該当する分類がない場合に用いられるため集計対象から除外している
3. ※2 自施設責任症例は当院で初回治療開始または継続した症例のことである
4. 治療方法の集計は自施設責任症例のみの集計値である
5. ※3 乳癌の治療方法の薬物療法とは化学療法・内分泌療法のいずれか一方または両方のことである

肺がん



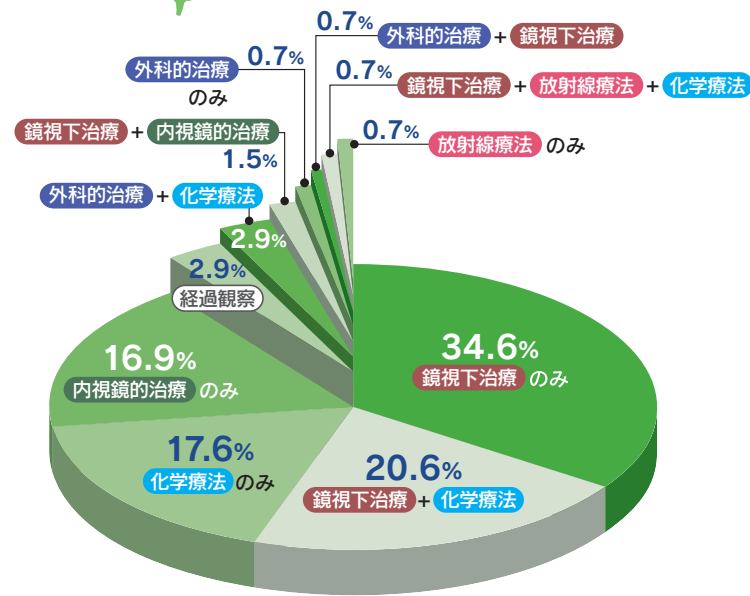
全症例数	454
自施設責任症例※2	397



大腸がん



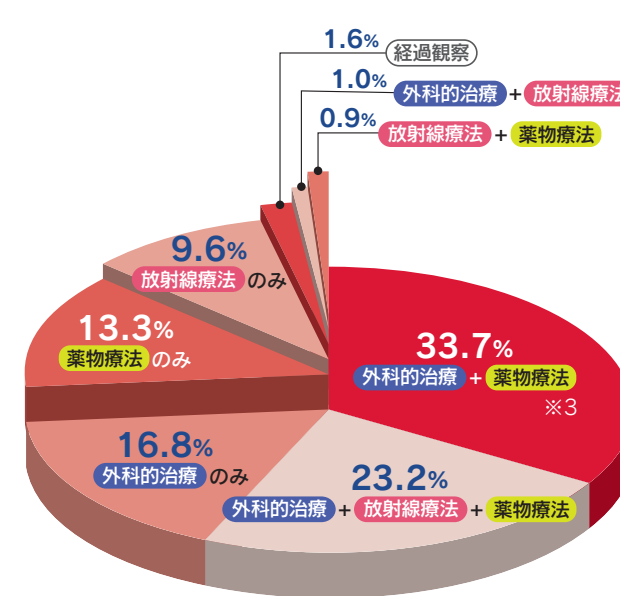
全症例数	175
自施設責任症例※2	136



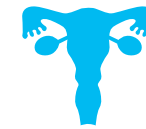
乳がん



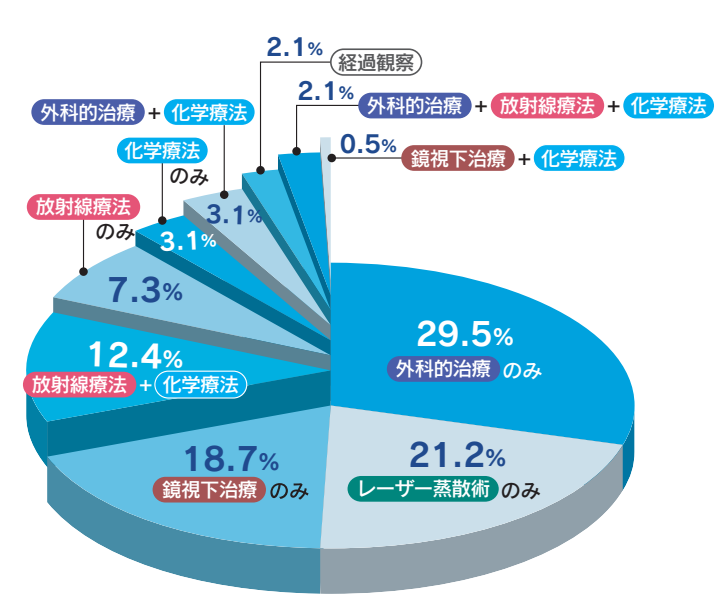
全症例数	650
自施設責任症例※2	573



子宮頸部がん



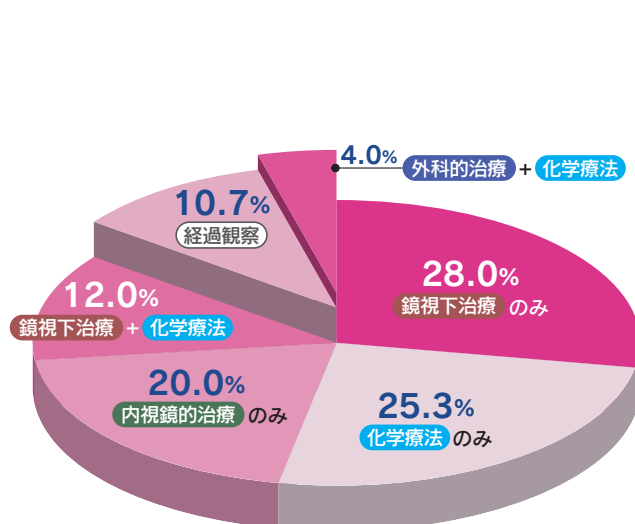
全症例数	203
自施設責任症例※2	193



胃がん



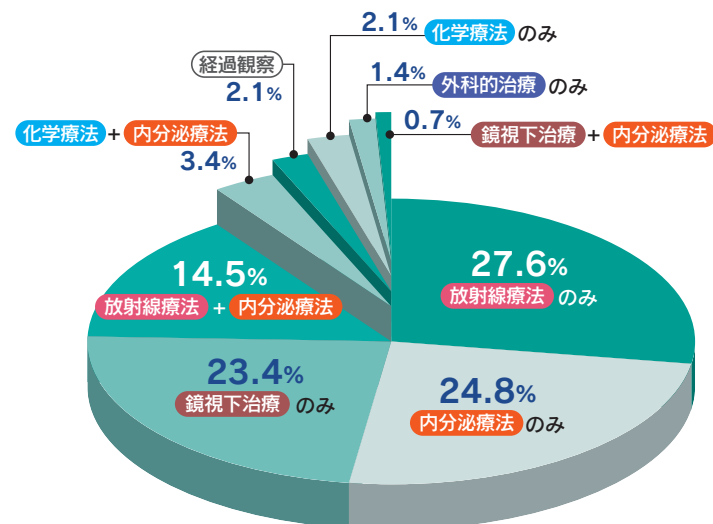
全症例数	85
自施設責任症例※2	75



前立腺がん



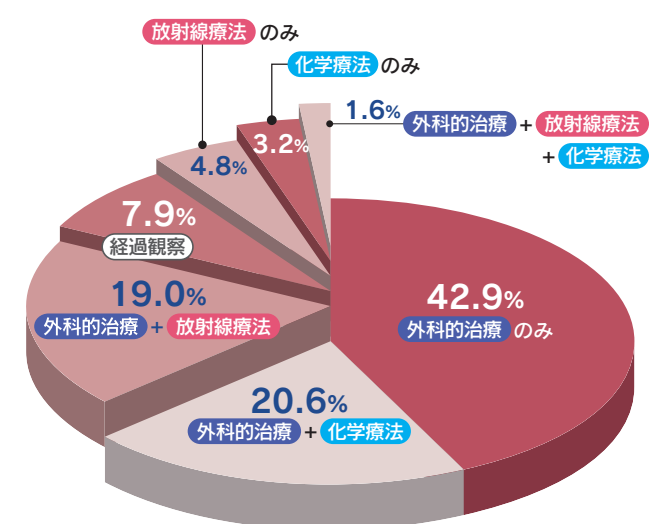
全症例数	202
自施設責任症例※2	145



骨・軟部腫瘍



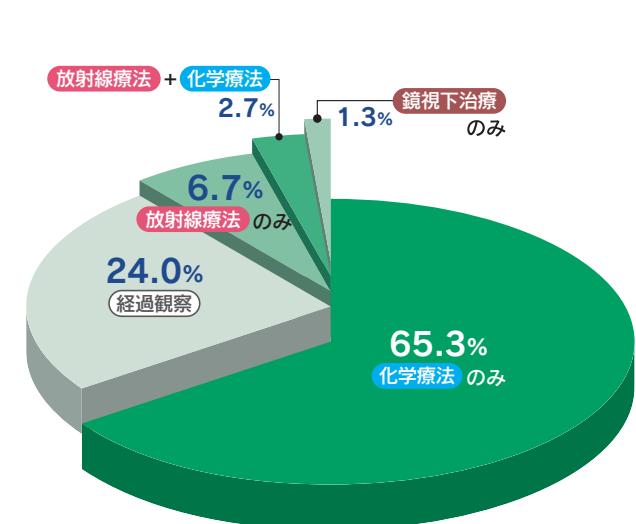
全症例数	76
自施設責任症例※2	63



悪性リンパ腫



全症例数	82
自施設責任症例※2	75



高度な知識と技術で生命の尊厳を守る 看護の実践

患者さんの思いを大切に

看護部長 窪田 明子

当院は、北海道内のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院です。がんを予防することや早期発見、放射線療法や化学療法、手術療法などありとあらゆる療法を組み合わせ、専門病院として、がん予防・治療の充実に日々取り組んでおります。

看護部の理念として掲げる「患者さんの目線に立った、心のこもった看護」のもと、患者さんに寄り添うことを最も大切にしており、多職種と協働しながら、がん専門病院として個々の専門能力を発揮し、高い倫理観のもと質の高い看護が提供できることを目指しております。がん看護の専門性を高めるために、充実した現任教育を計画的に実施し、さらに、看護師自身が生き活きと看護が実践できる魅力ある職場づくりに努めています。

私たちは、患者さんやご家族の思いを大切に誠実に患者さんに看護を提供していきたいと思っております。

看護部理念

患者さんの目線に立った、心のこもった看護を提供します

看護部基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、満足が得られる看護を目指します
2. 常に看護の質を追求し、科学的根拠に基づく看護を実践します
3. 他職種と協働し、患者さんが安心して療養できる環境を提供します
4. 専門職業人としての自覚を持ち、自己の能力開発に努めます

看護の視点

看護師は患者さんの表情、行動を目で見て、訴えや会話の変化に耳を傾け、わかりやすい言葉で説明し看護します。また、家族の患者さんへの思いや心配に配慮し、あたたかな言葉で対応します。

看護部長 窪田 明子

副看護部長 天野 麻美、千田 和美

- 専門病院入院基本料（7対1）：9単位
- 緩和ケア病棟入院料1：1単位
- ハイケアユニット入院管理料1：1単位
- 外来・手術室：2単位
- 看護体制：7対1看護職配置
チームナーシング
- 勤務体制：病棟 3交替勤務
(2交替勤務試行中)
- 看護職員数：常勤 371人
期間・非常勤 31人
(2025年1月現在)



がん患者さんが必要としている看護を提供できるよう、がん看護のスペシャリストである認定看護師を加えたチーム医療を実践しています。



看護のスペシャリストが活躍しています

診療看護師 (Japanese Nurse Practitioner:JNP)

診療看護師は、医療者と連携・協働を図り、一定レベルのマネジメントを自律的・効果的・タイムリーに遂行することにより、患者さんの生活の質 (QOL) の向上を図ることを目的とした看護師です。現在は、麻酔科に所属し、手術前の診察・全身状態の評価、術中の全身管理、手術後の診察までを主に実践しています。

看護師としての経験、大学院教育での知識、臨床研修でのスキルや知識を生かし、安全で質の高い医療と看護を同時に提供いたします。



副看護師長
印銀 里絵子

がん化学療法看護認定看護師

2014年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。

現在は、外来化学療法センターで投与管理や副作用の指導などを行っています。外来治療は自宅で体調観察や副作用のケアが必要となりますが、当院は高齢者も多く、ご家族の方を含めた支援を検討し安心して治療が継続できるよう努めています。



副看護師長
高瀬 たまき

緩和ケア認定看護師

『緩和ケア』は、がんと診断された時から、がん治療と一緒に受けられる医療です。身体や心の辛さを和らげることで、生きる気力や、がんに立ち向かう力もわいてきます。さらに患者さんの抱える辛さだけではなく、ご家族の悩みや不安へのサポートも行います。『緩和ケア認定看護師』は専門的な緩和ケアを提供するために必要な、より専門的な知識と熟練した技術を持った看護師で、緩和ケア病棟や緩和ケアセンターで活動しています。



副看護師長
佐々木 由紀子

がん放射線療法看護認定看護師

治療中のセルフケア支援だけではなく、治療前の意思決定支援を行い患者さん・ご家族が納得した上で治療を開始できるよう支援させていただいています。放射線治療は目に見えない治療であるため不安を感じる方が多く、安心して治療を受けられるよう身体的・精神的・社会的支援を主に行っています。また、患者さん個々の生活に応じた指導や支援を行い治療を完遂できるようサポートを実践しています。

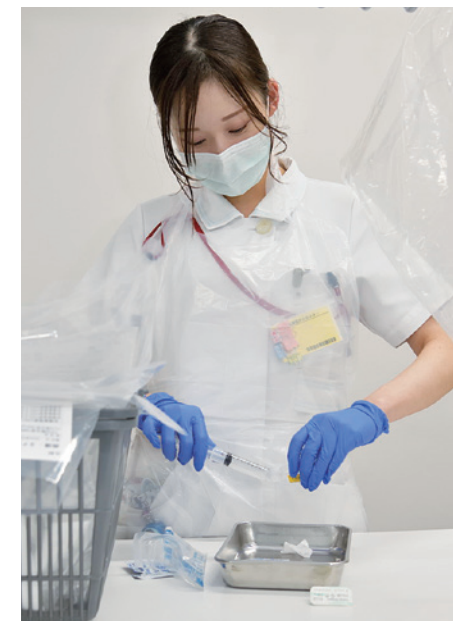
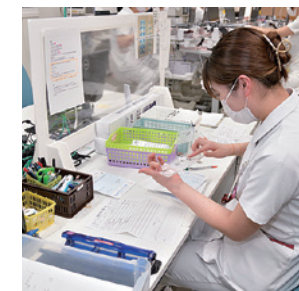


副看護師長
高島 優衣

専門・認定看護師

(2025年1月現在)

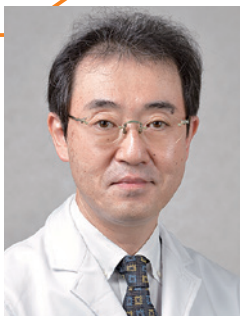
資格	人数
診療看護師	1人
がん看護専門看護師	1人
がん性疼痛看護認定看護師	1人
緩和ケア認定看護師	4人
がん化学療法看護認定看護師	3人
がん放射線療法看護認定看護師	1人
がん薬物療法看護認定看護師	1人
乳がん看護認定看護師	1人
皮膚・排泄ケア認定看護師	3人
感染管理認定看護師	3人
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1人
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1人



常に高いレベルを目指す 臨床研究および治験

当院の臨床研究部は、1988年10月に設置され、悪性腫瘍における診断技術の進歩、新規の有効な治療法の開発および発展、また最近では遺伝子診断による個別化治療など、悪性腫瘍の診断および治療の発展に寄与すべく、精力的に臨床研究に取り組んでいます。

臨床研究部長
横内 浩



研究室

当院で施行される臨床研究の倫理性や公正性を確保するために、外部委員も参加する形式で定期的に倫理審査委員会を開催しています。さらに、国立病院機構本部や国などと連携し、研究費の助成を行うなどの支援も実施しています。その活動実績は毎年「臨床研究部業績集」として刊行され、当院ホームページからも閲覧することができます。



臨床研究部による課題研究発表会

臨床研究部が現在行っている研究

臨床病理研究室

組織のモノクローナル抗体による診断、各種がんの生物学的特性の解明

がん臨床情報研究室

遠隔病理診断（術中迅速診断、細胞診）、がん登録、退院患者要約に関する研究

遺伝子工学研究室

白血病、悪性リンパ腫、各種固形腫瘍の染色体、腫瘍遺伝子の研究

細胞工学研究室

白血病、悪性リンパ腫を中心とした表面マーカーの研究

化学療法研究室

各種抗がん剤の薬理動態に関する研究など

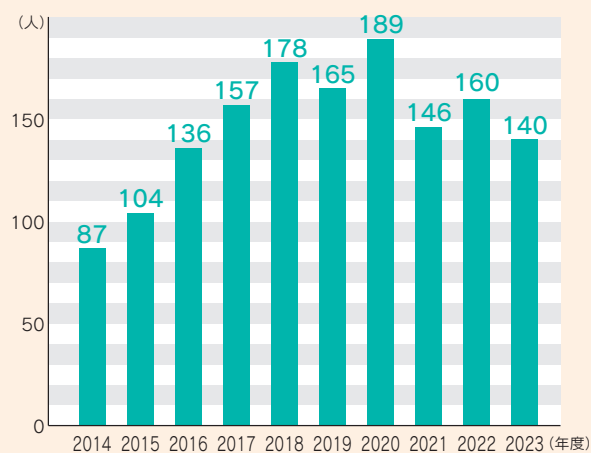
治験管理室

治験管理室では、医薬品・医療機器の開発および臨床研究の推進、医療の発展への貢献のため、院内の関連部門と協力しながら治験の支援業務や事務管理業務などを行っています。依頼された治験が適切に実施されるよう、また参加される患者さんが安心して治験を続けていただけるよう、専属の職員（臨床研究コーディネーター、治験事務員、データマネージャー）が常駐しています。当院で受諾している治験数も年々増加しており、現在は多くの患者さんに治験にご参加いただいています。

●当院で行っている治験

診療科	実施対象疾患	診療科	実施対象疾患
乳腺科	乳がん	血液内科	成熟B細胞性悪性腫瘍
骨軟部腫瘍科 (腫瘍整形外科)	軟部腫瘍		びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
	肉腫		多発性骨髄腫
婦人科	卵巣がん		非ホジキンリンパ腫
	子宮頸がん	消化器内科	大腸がん
	子宮体がん		小腸がん
	進行固形がん		進行固形がん
呼吸器内科	非小細胞肺がん	口腔腫瘍外科	がん治療に伴う口腔粘膜炎
	小細胞肺がん		
	進行固形がん		
泌尿器科	膀胱がん		
	前立腺がん		

●治験実施患者数の推移



院内外に広がる学びの場 研修・教育

当院は医師の卒後教育・生涯教育および専門領域の教育を行うに適した施設として、国および各学会から各種の指定を受けています。また、がんに特化した症例検討会やミニレクチャーなどを定期開催し、お互いにスキルアップしながら、がんの克服を目指して前進しています。

院内研修

連携医療機関から紹介された症例の報告と院内外講師による関連したミニレクチャーを行う「がん診療連携症例検討会」は2008年から毎年開催。ほかにも職種別や多職種参加の研修会などが行われています。



がん診療連携症例検討会

専門教育

●臨床研修医および レジデントの教育

1971年3月に臨床研修病院、1988年3月に臨床修練病院となり、多数の臨床研修医・レジデントの一般教育、専門医の育成を行っています。

●実習生の教育

そのほかの医療従事者育成の実習施設として、年間約400余名の医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士・臨床工学技士・理学療法士の実習生を受け入れ、実習教育の機関としての機能を発揮しています。



薬剤師の実習

子どもたちへの「がん教育」

2013年より、若い世代から予防、早期発見、医療など、がんに関する正しい知識の普及啓発を図るため、北海道保健福祉部、北海道教育委員会、札幌市保健所などと連携し、小学生、中学生、高校生を対象とした「がん教育の出前講座」を実施しています。

また、がん治療経験者を対象に北海道がん患者連絡会と協働で外部講師養成講座を開催し、がんの専門家(医師)、看護師、医療ソーシャルワーカー、ピア・サポーターをがん教育外部講師として学校へ派遣しています。



健康啓発活動

市民向けの「北海道がん講演会」を1983年から毎年実施しています。



がんを捉える 高度医療機器

手術支援ロボット ダ・ヴィンチ

da Vinci Surgical System

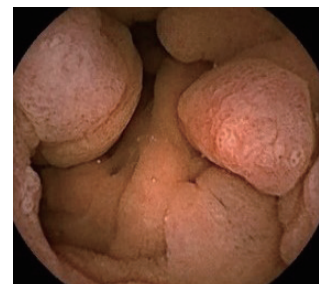


2024年9月に最新機種のダヴィンチXiシステムを導入しました。前世代のダヴィンチSiシステムに比べ機能が充実し、より複雑で難しい手術に対応することができるようになりました。泌尿器科、消化器外科、婦人科、呼吸器外科の内視鏡手術に使用しています。

大腸カプセル内視鏡

PillCam® SB3 カプセル

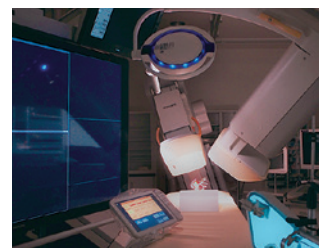
小型カメラや照明を内蔵した錠剤大のカプセルを飲み込むことで、小腸全体の撮影を行う患者さんにとって負担の少ない検査です。消化管の蠕動運動によって移動しながら1秒間に2枚、約8時間かけて合計約6万枚撮影します。



PET - CT GEヘルスケア社 Discovery MI DR



行っているFDG - PET検査はがん細胞の体内分布と活動状況を把握することを得意とし、CTでは臓器の形を映し出すことを得意とします。その2つの画像を重ね合わせることで、がんの存在位置や転移している部位などを正確に診断することを可能とします。

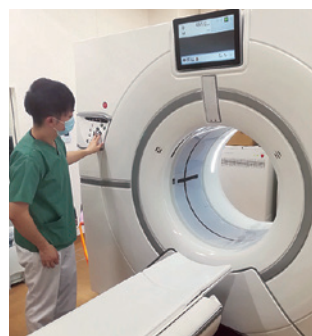


血管造影 X線診断装置

PHILIPS
Allura Clarity FD10/10

2018年9月に心疾患や不整脈の診断・治療に

用いる血管造影X線診断装置の最新機器を導入しました。コンピュータ画像処理機能で高精細な血管造影像の表示を実現。診断能力の向上と治療時間の短縮が可能になりました。これまでの機器よりもX線量を低減できることから、患者さんの安全性の向上にもつながっています。



マルチスライスCT

GEヘルスケア社 Revolution CT 256列

臨床の最前線で求められる高分解能と高速化を併せ持った256列CT装置を導入しています。64列CTでは1回転で撮影できる範囲が4cmだったのに対し、256列CTでは4倍の16cmが撮影可能です。1回転0.28秒という高速回転が可能で、高速テーブル移動との組み合わせで撮影時間が大幅に短縮。頭部で1秒、胸部から骨盤部であれば4秒以内で撮影可能なため、患者さんの呼吸や体動による影響を最小限に抑えることができます。また、逐次近似画像再構成法やOrgan Dose Modulation (ODM) 機能によって低被ばくで高品質の画像が得られるほか、ガントリー開口径80cmとこれまでのCT装置より10cm広くなり、患者さんに圧迫感を与えることなく検査がスムーズに行えるようになりました。

MRI

PHILIPS Ingenia 1.5T

1.5TのMRIが2台あり、そのうち1台は開径70cmのワイドボアで、閉所が苦手な患者さんに配慮した設計です。当院MRI室は日本医学放射線学会画像診断管理認証施設の認定を受け、安全なMRI室の運用に努めており、全身のMRI検査 (DWIBS) でも施設認証を受けています。また、北海道で唯一、保険診療による乳房MRIガイド下生検が実施可能な施設として、院外からの受け入れも積極的に行っています。



2023年度 実績 DATA

患者の状況

【病 床】

運用可能病床数／430床
入院患者数／9,479人
在院延患者数／113,961人
一日平均在院患者数／311.4人

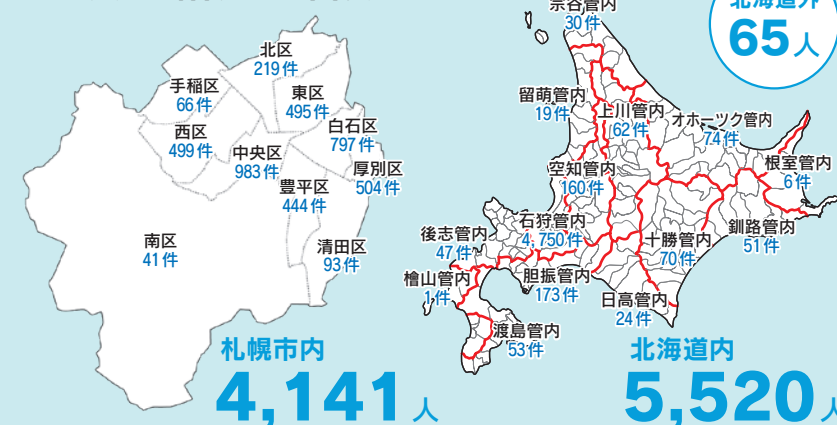


【外 来】

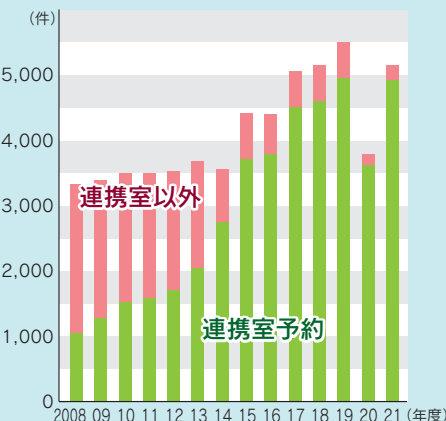
新患者数／6,630人
再来患者数／140,735人
患者延数／148,365人
一日平均外来患者数／606.4人



地域別 紹介患者数

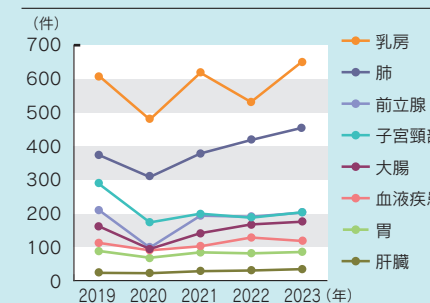


連携室予約の推移

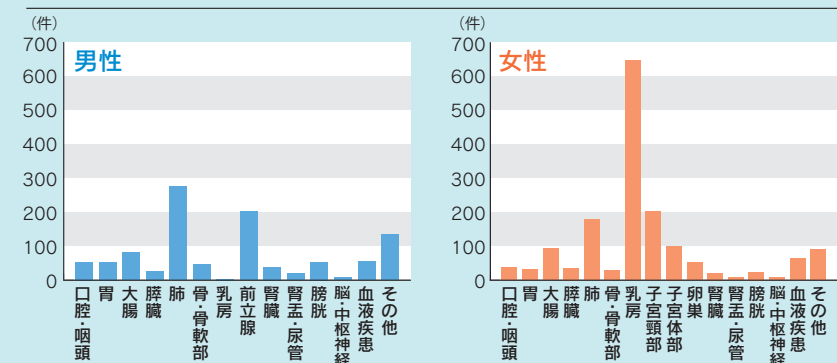


院内のがん登録数

2019～2023年 がんの症例部位別登録数



2023年 がんの性別・部位別登録数



院内がん登録室・全国 (北海道) がん登録室

がんのさまざまな情報を把握するため、院内のがん登録を行っています。また、北海道の業務委託を受け、道内がんの統計データも集計しています。

